

## 平成29年度 学校評価実施報告書

学校番号 9

学校名 千葉県立千葉北高等学校

課程名 全日制の課程

領域	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学校経営	<p>① ホームページの更新を充実させるとともに、更新時には一斉送信メールで更新を知らせ、閲覧を促した。学校評価アンケートは一つの内容を生徒・保護者・教職員の三方から質問する形にして2年目であり、比較検討ができるようになった。</p> <p>② 昨年度同様、緑が丘中学校区青少年育成委員会ほかの地域行事に生徒が参加協力した。吹奏楽部は8回(予定含む)、茶道部は2回、書道部は1回の校外での活動を行い、感謝の言葉をいただき励みになった。</p>	<p>① ホームページの更新を多くの生徒保護者に一斉送信メールで連絡するために、メールの登録数増加が課題である。学校評価アンケートの結果を踏まえ、その原因の分析とともに、学校運営や指導全般にわたり更に改善を図る必要がある。</p> <p>② 生徒の地域行事等への参加は、生徒の有用感や充実感・達成感等につながることから、今後も部活動等の校外活動を支援し、継続する。また、近隣小中学校との連携を進め、高大連携事業及び授業公開についても一層の充実を図りたい。</p>
学習指導	<p>① 授業力向上のための工夫については、生徒と教職員では満足度に差がみられた。保護者からは進学補習への工夫や授業力向上を期待する声が多く寄せられ、関心の高さを示す結果となった。(授業力向上週間2回、外部講師研修1回)</p> <p>② 家庭学習に関する項目は、生徒・保護者・教職員ともに数値が低い、生徒の数値が昨年よりも低くなっており、更なる工夫が必要と思われる結果となった。</p>	<p>① 授業に関する項目において、保護者から職員の授業展開や生徒向けの課題に関するコメントが多く寄せられた。個々の職員が努力を続けることはもとより、職員相互の連携を強化するなどの工夫・検討が必要である。</p> <p>② 学校と家庭が連携し、生徒が家庭において学習できる取組を考えていくとともに、アンケートの取り方についても再考の余地がある。</p>
生徒指導	<p>① 各学期に1回、全職員による登校指導を実施した。第1学期末の皆勤者数は1,071名中766名、第2学期末時点では513名と非常に多い状況であり、昨年度に比べ増加している。遅刻回数が多い生徒については保護者連絡・面談等を行った。該当生徒は1名であった。</p> <p>② 教育相談については、教育相談室を中心とした教育相談体制が図られている。また必要に応じて個人面談も行われている。</p> <p>③ 人権教育の一環としてSNSの正しい使い方、人権啓発に関するビデオを上映した。また、いじめアンケートを実施し、その結果から実態把握・早期発見をし、対応した。</p> <p>④ 1学年を対象に交通安全講話を実施したが、年度を通じて自転車の事故が発生した。</p> <p>⑤ 整容(服装)指導や服装頭髪検査については、強化週間も設け、生徒の実態に応じて実施した。</p>	<p>① 時間を見据えて計画的に行動できる習慣の定着を促す。遅刻の多い生徒には個別に本人、保護者との面談を実施し、家庭からの協力を得ながら正しい生活習慣の確立をめざす。定刻5分前集合のさらなる徹底指導を行う必要がある。</p> <p>② 生徒への教育相談体制の周知を十分行う。今後も各担当者との連携を密にしながら生徒の心身の健康育成を図る。</p> <p>③ 引き続き教育活動での充実を図り、思いやりの心を提唱し他人の人権を考えることができる心を育む。</p> <p>④ 通学路での危険区域を再確認し、引き続き交通規則を遵守する精神を育てる。</p> <p>⑤ 毎時間の整容(服装確認)を継続し、より一層の指導の定着を図る。また、学年間の指導格差是正のために、生徒指導部と学年指導係の合同会議を引き続き開催し、共通認識を構築する。</p>
キャリア教育	<p>① 進路補習や進路ガイダンスの実施及び「進路・表現サポート」の指導などにより、7割程の保護者・生徒から肯定的な評価を得た。</p> <p>② 進路補習については、平常時・夏季休業中ともに20講座以上を実施した。進路ガイダンスは例年の反省を生かし、適宜工夫や改善を行った。</p> <p>③ 各種ガイダンス等の行事については、ホームページ上で活動報告を行い、周知した。</p>	<p>① 現在の進路指導体制を継続するとともに、定期的なアンケート調査を保護者及び生徒に実施することでニーズを把握していく。</p> <p>② 進路補習や進路ガイダンスの案内や実施予定については、事前にホームページ上で告知することで、保護者への関心や理解を深める。全校の進路通信について、発行を検討する。</p> <p>③ 進路行事後のアンケート調査について、可能な範囲でホームページ上にアップし、結果を共有するとともに、次年度への反省として生かす。</p>
特別活動	<p>① 自分のクラスが楽しいと答えた生徒は、昨年度と同じ78%であった。保護者・教職員の数値も大きな変化はなかった。</p> <p>② 学校は地域と連携した取組を熱心に行っていると肯定的に答えた生徒は昨年度67%から50%へ、教職員は90%であった。</p> <p>③ 学校行事は充実していると答えた生徒は、昨年度72%から今年度は64%と減少したものの、自分のクラス(あるいは学校)が楽しいと答えた生徒は昨年度と同じく今年度も78%であり変化がなかった。</p>	<p>① 現在の状況をさらに向上できるように、内容の充実・強化図っていく。</p> <p>② 生徒と教職員の間で大きな数値の差が認められる。地域行事への参加等をより積極的にを行い、地域連携事業の充実を図っていくとともに、実際に行っていることを生徒に知らせることが大切である。</p> <p>③ 生徒のコメントの中で、体育大会の競技の種類や選択の幅を増やしてほしいという意見が目立った。次年度の体育委員会での議題として検討し、生徒の行事に対する満足度の増加を図りたい。</p>
特色ある教育活動	<p>① 7月にオーストラリア短期留学を実施し、1年11人、2年1人、3年1人の13名が参加した。10月に国際理解セミナーを実施した。高野孝子氏の講演には多数の保護者の来場が見られ、事後アンケートにおいても好評であった。</p> <p>② 10月に授業公開を行い、保護者・近隣中学校教員・生徒から本校の授業展開や生徒の様子について、肯定的な評価を得られた。</p> <p>③ 明治大学・東邦大学との高大連携授業を実施し、受講した生徒からは好評であった。また意識の高揚から、生物部が全国総合文化祭に県代表として参加することとなった。</p>	<p>① 短期留学の引率職員の決定を早くし、出発日を遅らせることで、事前準備を充実させたい。国際理解セミナーでは、生徒の評価を左右することになる講師の人選や講演内容について、毎回多面的に検討する必要がある。</p> <p>② 開かれた学校づくりの一環として授業公開の評価は良好である。実施時期や方法等の周知の仕方についてもさらに検討し、参観者の増加に努める。</p> <p>③ 大学等との連携については、今後も積極的に多くの機関に働きかけ、機会を増加して継続していく。</p>